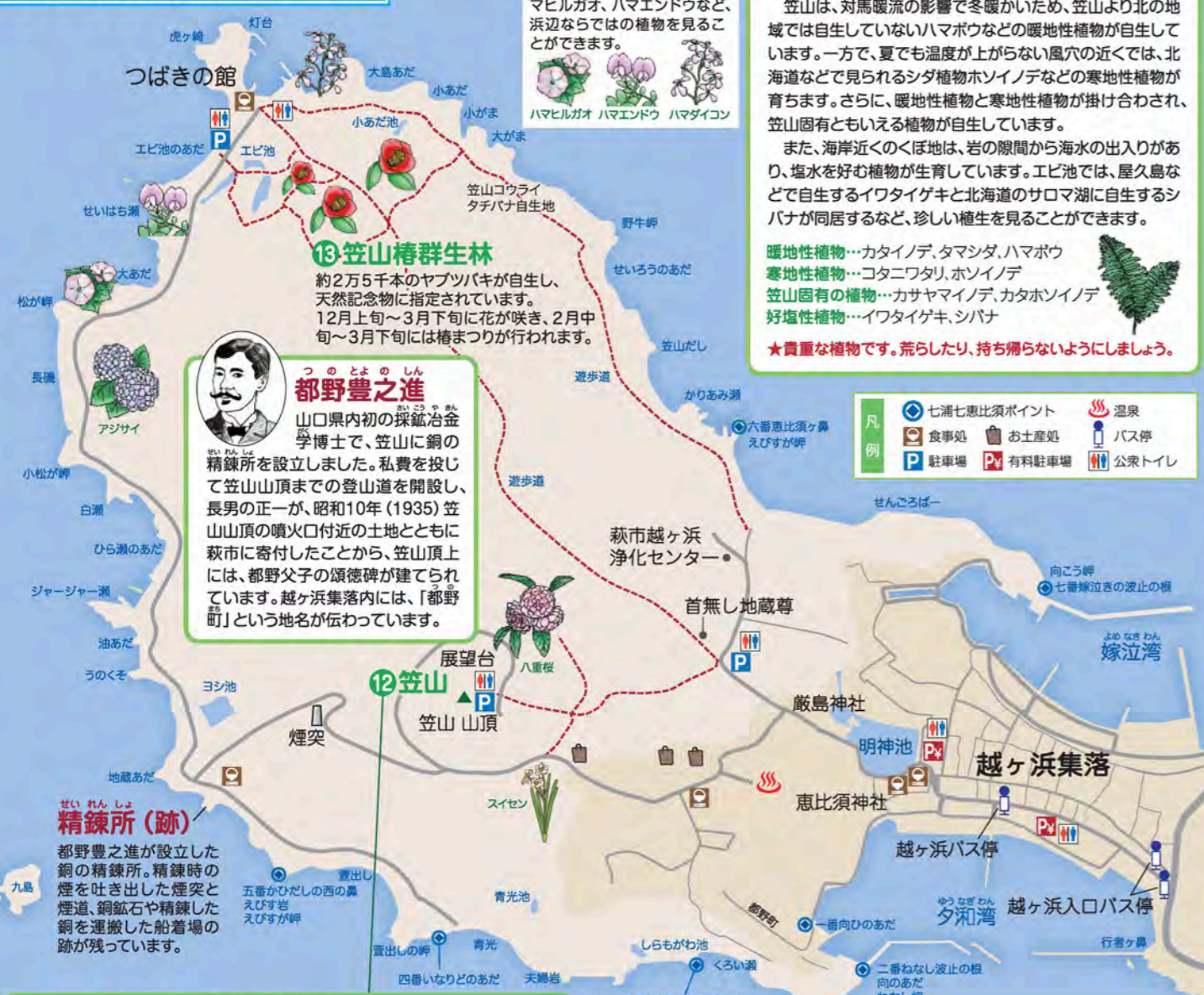


# 笠山おたからマップ



## 浜辺の植物

海沿いには、ハマダイコンやハマビルガオ、ハマエンドウなど、浜辺ならではの植物を見ることができます。

ハマビルガオ ハマエンドウ ハマダイコン

## 暖かくて寒い笠山の植物

笠山は、対馬暖流の影響で冬暖かいため、笠山より北の地域では自生していないハマボウなどの暖地性植物が自生しています。一方で、夏でも温度が上がらない風穴の近くでは、北海道などで見られるシダ植物ホソイノデなどの寒地性植物が育ちます。さらに、暖地性植物と寒地性植物が掛け合わせられ、笠山固有ともいえる植物が自生しています。

また、海岸近くのくぼ地は、岩の隙間から海水の出入りがあり、塩水を好む植物が生育しています。エビ池では、屋久島などで自生するイワタイゲキと北海道のサロマ湖に自生するシバナが同居するなど、珍しい種生を見ることができます。

暖地性植物…カタイノデ、タマシダ、ハマボウ  
寒地性植物…コタニワタリ、ホソイノデ  
笠山固有の植物…カサヤマイノデ、カタホソイノデ  
好塩性植物…イワタイゲキ、シバナ

★貴重な植物です。荒らしたり、持ち帰らないようにしましょう。

**つとよのしん 都野豊之進**  
山口県初の探鉱冶金学博士で、笠山に銅の精錬所を設立しました。私費を投じて笠山山頂までの登山道を開設し、長男の正一が、昭和10年(1935)笠山山頂の噴火口付近の土地とともに萩市に寄付したことから、笠山山頂には、都野父子の顕徳碑が建てられています。越ヶ浜集落内には、「都野町」という地名が伝わっています。

**精錬所(跡)**  
都野豊之進が設立した銅の精錬所。精錬時の煙を吐き出した煙突と煙道、銅鉱石や精錬した銅を運搬した船着場の跡が残っています。

## 笠山と島々 ~阿武火山群~

笠山は、活火山・阿武火山群で最も若い火山で、約1万年前に噴火しました。笠山の噴火は、まず大量の溶岩がドンドロと広範囲に流れて安山岩の溶岩台地となり、その後、マグマのしびきが空中高く噴き上がり、溶岩台地の上に小高い丘ができたことから、市女笠のような形をしています。



(参考: 萩ジオパーク構想パンフレット)

## 越ヶ浜と七浦七恵比須

神仏を大事にする越ヶ浜の人々は、笠山の周囲にある岬にも七浦七恵比須を祭ってきました。江戸時代初期に宮島から厳島神社が勧請されると、毎年旧暦の6月17日夜には、豊漁や航海の安全を願う「管弦祭」が行われるようになりました。かつては、神輿を船に載せ、先導船、漕ぎ船、神船、巫女船、御供船が一列に並んで海上を進み、指月山をめざす途中で、この七浦七恵比須をはじめ、行者鼻、九島の神々に船上から「巫女の舞」が奉納されていました。現在は、安全上の理由から先導船が各所まで行き、その時分に合わせて、離れた場所から舞が奉納されています。

## 江戸時代の笠山と越ヶ浜

越ヶ浜は、笠山の東側の砂州の上に発達した集落で、天和元年(1681)に、漁村として新しく作られたとされています。それ以前は、波が高い時には砂州の浜を波が越えていたので「越ヶ浜」という地名がついたという説や、「越」というのは北の方角をさす言葉で、萩城の北の方角にある浜ということで「越ヶ浜」と名付けられたという説もあります。

笠山は、萩城のある指月山に対し鬼門(北東の方角)にあたることから、藩主は笠山に猿を放し飼いにすることで、「災難がさる(サル)」というおまじないをかけていたといわれています。当時の絵図には、猿が餌付けされ、人と戯れる様子が描かれています。絵図には、人々にぎわう町や、寄港中の回船、水運が女性たちの様子なども描かれています。



個人蔵

## 施設のご案内

### つばきの館

山口県漁協越ヶ浜地区女性部運営の食事処。虎ヶ崎にあり、海をながめながら食事ができます。サザエ飯・つば焼き・イカの1枚焼きなど安さと味が自慢です。おすすめは、甘鯛の煮付けや、サザエの炊き込みご飯をメインにした“つばき定食”(1,600円)です。  
住所: 山口県萩市椿原716-16 (萩市虎ヶ崎・椿群生林入口)  
電話: 0838-26-6446  
時間: 11:00~16:30 (食材がなくなり次第終了する場合あり)  
定休日: 水曜日(ただし臨時休業あり)、年末年始



### 笠山展望台

笠山の頂上付近から、日本海と萩の島々を見ることができます。  
入場料: 無料  
時間: 展示室は9:00~17:00



## 越ヶ浜の季節暦

\*食の時期はおおよその旬を表しています。

	春	夏	秋	冬
自然	ツバキ サクラ ハマエンドウ	ユウズ アジサイ ハマビルガオ コウライイタチバナ	ツツキ 萩山からの眺め	ヤブツバキ開花 スイセン サザンカ ダルマギク
食	ボテコ(カサゴ) マダコ(2-5)	アナゴ(5-7) サクラエビ アジ(3-8)	カナフグ(9-11)(シロサバフグ) サワラ(9-12) スズキ 赤ウニ	トラフグ(12-2) マダコ ブリ ナマコ(12-2)
祭り・イベント	樺まつり(3月下旬)	厳島神社春祭り 和船競漕 管弦祭 地蔵祭り	恵比寿神社祭り	笠山虎ヶ崎海岸清掃 樺まつり(2月中旬)

笠山・越ヶ浜地区では、漁業を営む家が多く、「板子一枚下は地獄」ということわざがあるほど、自然・天候によって安全が左右される危険な仕事である漁師の無事を願って、神仏を大事にしてきました。そのため、季節毎の祭りや行事も集落を挙げて行われています。

## ガイドのご案内

### 樺見どころ案内

樺まつりの期間中(2月中旬~3月下旬)、笠山椿群生林の見どころをご案内します。  
期間中土・日・祝: 無料、平日: 有料(1,000円)、要予約  
申込み・問合せ: NPO萩観光ガイド協会 TEL 0838-25-3527



H28.3 現在

## 萩まちあるきマップ

# 笠山・越ヶ浜地区 おたからマップ



日本海に浮かぶ市女笠のような形が特徴的な山・笠山と、その笠山が陸続きとなった砂州の上に発達した越ヶ浜。笠山は、阿武火山群のひとつで、噴火口や溶岩台地などの火山地形や、溶岩が生み出した風穴と対馬暖流との影響を受けた独特の植生など、自然の見どころが多数あります。そのふもとに広がる越ヶ浜は、両腕のように伸びた半島に夕瀬湾・嫁泣湾を持ち、港には藩政期から明治期にかけて北前船などの回船が立寄り、漁業も盛んで、多くの人々が住まい、行き来していました。陸続きとなった時に海に取り残された「かん水湖」の明神池は、海の魚が泳ぎ、安芸の宮島から勧請した厳島神社とともに大事にされてきました。また、商売などを元につけた門名や神仏信仰・祭礼などが昔から続いてきました。火山がもたらした多様な自然を持つ笠山と、漁業集落の文化が色濃く残る越ヶ浜を巡ってみませんか。



このマップは萩まちじゅう博物館の各エリアのおたからを紹介するマップとしてシリーズで発行しています。詳しくは萩データベースでチェック!!  
machihaku.city.hagi.lg.jp/db/

編集発行 萩まちじゅう博物館推進委員会笠山部会  
越ヶ浜町内会、山口県漁協越ヶ浜地区女性部  
萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業実行委員会

# 越ヶ浜おたからマップ

## 笠山と風穴

笠山には、風穴と呼ばれる冷たい空気の出る場所があります。これは、崩れた溶岩の間にできた空間（タンク）に、冬は外より温かいので冷たい空気が流れ込み、夏は逆に外の方が温かいので、冬の間にタンクに貯められた冷たい空気が外に流れ出し、風穴のまわりだけ涼しい環境が作られるといわれています。

笠山石の石組みの上に、家々が建ち並んでいます。石組みの間にも「ひやし」と呼ばれる風穴があり、各家で保冷庫として使うこともあったそうです。

## 風穴

二代藩主 毛利綱広によって、延宝6年(1678)に宮島から勧請されたもので、集落をあげての祭りが春と夏(管弦祭)に行われます。

## 厳島神社

島であった笠山が砂州で陸とつながる時に、海が取り残されてきた池で、岩石や砂のすき間や水路から海水が入り込んでいるため、池の水は海水で、タイやボラなどの海の魚が数多くすんでいます。

## 明神池

※トンビもたくさん！魚にエサをやる際にはご注意ください。

## 明神池は

大正13年(1924)に国の天然記念物に指定された景勝地です。大正15年、昭和天皇が皇太子の代に行啓で笠山と明神池を訪れた際、魚釣りができるように準備していましたが、地元では神聖な池だから魚はとらないということを知ると、魚釣りは断ったというエピソードが伝えられています。

## おすすめトレイル

## ジオツアー

## 笠山の自然を巡るトレイル

### 8 9 休労泉・明神池

▼ 徒歩

### 10 11 風穴・厳島神社

▼ 徒歩または車

### 12 笠山

▼ 徒歩または車

### 13 椿群生林

※⑫、⑬は裏面の地図に掲載しています。

## 休労泉と杉民治

江戸時代の終わりの弘化2年(1845)、越ヶ浜の庄屋末武為吉は、人々の水の確保の苦労を少しでも軽くしようと、山から集落へ水をひくことを藩に願い出ました。この願いは20年以上経った明治元年(1868)、当時の代官であった杉民治(梅太郎、吉田松陰の兄)の手により山口県下で最初の水道として実現し、「休労泉」と名付けられました。そのいきさつを記した石碑が残っています。

- 凡例
- 食事処
- お土産処
- バス停
- 駐車場
- 有料駐車場
- 公衆トイレ

弘法大師空海が唐から帰国する際、嵐で難破しかけたとき、不動明王の木像を波に投げ入れると、右手の剣が波を切り裂き、波が治まったという伝説があり、海難除け・航海安全の神様として大尊にされています。

子どもが産まれる際には、このお地蔵様に腹掛けをかけた安産と成長を願ってきたそうです。毎年8月24日には、地蔵盆のお祭りが開かれます。

## 路地巡り

路地を歩くと、ところどころに赤い格子戸がある町家が見られます。建物の防腐等のためにベンガラを塗るのが、かつてはその家の嫁の仕事だったそうです。

江戸時代から続く漁業集落ならではの密集した家並みと細い路地、今も使われる門名などから、暮らしの歴史を見ることが出来ます。

かつては、海岸線がもっと集落に近く、石の浜が続いていました。

## 越ヶ浜の延縄漁

越ヶ浜でもっとも盛んな漁法のひとつが延縄漁です。延縄は、地元でナガノ(長縄)とも呼ばれ、長い幹縄に枝のように釣糸をつけ、その一本一本に釣り針を結び、えさをつけて沈めることで、広い範囲の魚を一度に釣ることができます。

## 嫁泣節

砂州の上に作られた集落では、井戸を掘っても海水しか出なかったことから、越ヶ浜の人々は飲み水を手に入れるため、大井や小畑に行く海岸沿いにある「カワ」と呼ばれる湧水の場所まで、毎日水を汲みに行っていました。この水汲みは主に女性や子どもたちの仕事で、たいへん重労働でした。「嫁泣節」という地元の民謡には、「わたし泣き泣き、水汲みに」という歌詞があり、女性の水汲みのつらさがうたわれています。

## 越ヶ浜の門名

越ヶ浜には、北前船などの船とその乗組員の世話をする船宿や問屋が多数あり、その船の出身地や扱う荷物の産地によって「越前屋」や「和泉屋」などと決まっていた。今もその頃の名残で、昔の国名のつく「門名(かどな)」が、家々のあだ名として現在も使われています。他にも、「ハマヤ(浜屋)」など居住場所からつく門名や「コメヤ(米屋)」など職業からつく門名、「カンベヤ(勘兵衛屋)」など先祖の名からつく門名など、様々な門名があります。

越ヶ浜に寄港した際に、病気などで亡くなった回船の乗組員は、越ヶ浜で葬式を行い、越ヶ浜の墓地に埋葬されていました。それらの墓には出身地の国名などが刻まれ、今も越ヶ浜の人々によって大切にされています。

## 3 他国出身者の墓

## おすすめトレイル

### 1 漁協・越ヶ浜夕利港

▼ 徒歩

### 2 行者様

▼ 徒歩

### 3 中善寺・他国出身者の墓 ※

▼ 徒歩

### 4 路地巡り ※

▼ 徒歩

### 5 お不動様

▼ 徒歩

### 6 路地巡りシューヤ町 ※

▼ 徒歩

### 7 地蔵堂

▼ 徒歩

### 漁協

※集落や墓地は人々の生活の場や大切な場所です。見学の際には、むやみにせまいところに立ち入らないなど、プライバシーとマナーを守りましょう。

## 「シンカワ」の跡

かつて、海岸には道のない石の浜が続き、越ヶ浜の人々が水汲みをする「カワ」と呼ばれる水の湧く場所がこのあたりにありました(現在は埋められて道路になっています)。

## 回船の寄る港・越ヶ浜

笠山へ続く砂州の上にひらけた越ヶ浜は、夕利湾と嫁泣湾の2つの湾に面しています。この2つの湾は、風や波の影響を受けにくいので、湾の奥の部分が昔から船をつなぎ止める港として利用されてきました(北側は嫁泣港、南側は夕利港)。

江戸時代の萩は、萩藩の城下町として栄え、政治や経済の中心地でした。城下にはたくさんの人が住み、他所からの人の出入りも多くありました。そして、そのような人や藩を相手に、多くの商家が盛んに商売を行い、城下の人や藩にとって必要な物資が、萩の町へもたらされていました。

当時は道路などが発達していなかったため、大量の荷物を運ぶ時には船が利用されていました。荷物を運ぶ船のことを「回船」と呼び、萩の町に出入りする荷物も多くは回船によって運ばれ、それらの回船がよく利用したのが越ヶ浜の港だったのです。

城下には浜崎という港がありましたが、河口の港で水深が浅く狭かった上、風や波の影響を受けやすかったため、大型の回船は利用することができませんでした。そのため、大型の回船や、都合の良い風が吹くの待つ船(昔は風の力を利用する帆船であった)などは、深くて広い越ヶ浜の港に寄っていました。越ヶ浜は城下からは少し離れていますが、城下の人々の生活や萩藩の政治や経済を支える重要な港だったのです。

文政5年(1822)萩でコレラが流行した際、それを阻止しようと行者が祈った場所です。

## 行者様

